

民国連携に向けたシカ捕獲圧の強化について

九州森林管理局 大分西部森林管理署 職名 ○森林技術指導官 渡邊昭伍
地域統括森林官 川原 博

1 課題を取り上げた背景

近年、シカ、イノシシ等による農林業の被害が深刻なものとなっています。防護柵等の設置は実施していますが、問題解決のためには捕獲を実施することが求められています。

2 取組の経過

大分西部森林管理署では職員及び委託によるシカ捕獲を実施しています。職員実行については、効果的なシカ罠の設置など捕獲技術の向上に努めてきました。一方で、現場に設置したシカ罠の見回りなど、移動時間等も含めたシカ捕獲にかかる時間的な制約が大きな負担となり、他の業務に影響を及ぼしかねない状況が懸念され、効率的なシカ捕獲が求められました。

このような現状を踏まえICTを利用した長距離無線捕獲システムを導入しました。

このシステムは親機と子機に分かれており、電波を相互に送受信、開発メーカーのクラウドにデータ送信されています。子機に捕獲等の何らかの事象があればメールが送信され、ホームページ上で設置した子機の位置及び捕獲等の状況の有無がリアルタイムに閲覧できるシステムです。

また、使用する前段で利用可能エリアの確認検証については、使用する電波の周波数が14.2MHz帯であり、利用にあたって親機と子機がどれくらい離れて利用できるかを20箇所調査・検証を行いました。その結果、見晴らしのよい山頂付近に親機を設置すれば半径約50km程度の範囲で利用可能であること、見通せない箇所も山岳等の反射波で、ある程度利用できることが分かりました。



ICT を利用したシステム

3 実行結果

令和2年10月から親機1台、子機40台で運用を開始、現在は親機3台・子機75台となっており、玖珠森林事務所、中村森林事務所、山国森林事務所とエリアを拡大しています。

令和2年10月から令和3年3月までの捕獲実績は36頭、令和3年4月から9月までは81頭でした。捕獲された時間帯は9割が日没後～深夜であることが分かりました。

利用した職員の意見として「30年以上職員実行により捕獲を実施しており、従来は毎日設置した罠の見回りをする必要があったが、巡視を省略できることから、仕事の段取りがしやすくなった」「シカの埋設処理をしない日が確実にわかり、安心して仕事ができる」「ワナの位置と捕獲状況が一覧で確認でき、非常に便利である」「森林官・捕獲担当者・署員との情報交換・連絡が活発となりました。」「若手職員がICTを利用したシカの捕獲に興味を示している」などがありました。



子機の設置状況

4 考察

現在、大分西部森林管理署管内の殆どの国有林で長距離無線捕獲システムは利用可能エリアとなっていますが、使用しているのは当署の職員のみでありシカ捕獲の委託契約に反映されていません。また、当署管内の自治体や猟友会にも採用されていません。このようなことから国有林民有林を網羅する効果的・効率的なシカ捕獲に向けたシステム網の拡大普及に努めていますが、シカ生息数の減少は国有林だけで出来るものではなく、各県、各自治体、猟友会等と連携・協力しながら実施することが重要と考えています。これまで培った経験と技術等を提供し、シカ捕獲圧を強め、生息密度の減少へつなぎ、農林業を含めたシカ被害の減少と造林コストの低減に努めます。